

## ウータン・森と生活を考える会

# インドネシア・ボルネオ島における「開発」圧力に抗する地域住民主体の伝統知に基づく収入創出と環境教育を通じた熱帯林保全及びそれを支える日本でのしくみ構築

活動地域  インドネシア



タンジュン・プティンの村人たちが植林地にて

### 課題

熱帯林破壊や森林火災の多くは、大企業の開発による土地転換によるものであり、開発圧力下にある地域住民の持続可能な収入創出と消費者側の啓発と支援の仕組み構築が必要。

### 目標

アグロフォレストリー・エコツーリズム等大規模開発に代わるオルタナティブな収入創出を地域住民主体で実行されるように促し、当事者として日本から支援する仕組みを作る。



### 今後の展望

先進地域訪問・環境教育による、地域住民主体の苗づくり・植林、アグロフォレストリー、エコツーリズム等収入創出を担う次世代キーパーソンの育成を継続し、日本から支援するファンドレイジングの仕組みを構築する。

ひろげる助成

1年目

実践

### 活動内容と成果

- タンジュン・プティン地域で①在来種9種類の苗づくりと植林10haを実施②アグロフォレストリー実施に向けて先進地域研修を行い実験場を村内につくった③エコツーリズムのポスターを作成・配布した
- ムラサ村で①アグロフォレストリーとして果樹の植林7haを実施②その普及のための環境教育に向けた先進地域研修を行った
- 日本から支える仕組み構築のため①学習会を4回開催(参加者278人)②広報メディア制作検討ワークショップを実施し③熱帯林保全啓発の動画及び④「ボルネオ熱帯写真館」の試作品が完成



熱帯写真館と当会の紹介動画のYouTubeリンク

在来種や果樹の植林面積 **17 ha**

学習会の参加者 **278人**

今年度計画の達成度 **100%**

目標達成度 **30%**

## 苦勞した点と工夫した点

### ■苦勞した点

インドネシア、日本ともに、新型コロナウイルス禍の移動制限によって対面の活動を減らさざるを得なかった。

### ■工夫した点

移動制限を受けてオンラインでのイベント、打ち合わせ等を盛り込んだことで、国内外問わず場所に縛られず繋がることできた。

〒530-0015  
大阪府大阪市北区中崎西1丁目  
6-36-308 連合事務所気付  
電話：050-5876-7925  
E-mail：contact-hutan@hutangroup.org  
HP：https://hutangroup.org/

